監修の言葉

ドキュメンタリーに時代を読む──戦前「文化映画」から戦後「教育映画」へ

吉原順平 映像・展示計画者

『小林一茶』の貧しい農村の戦前を『雪国』の厳しさのなかで生きた人たちもいたし、『開拓突撃隊』として大陸の植民地に渡った人たちもいた。『雪の結晶』が読み解いた天空からの手紙は昭和科学の華であり、ナチュラリストの心が捉えた『或日の干潟』は美しかったが、『満州大豆』の植民地経営から戦時経済、『爆風と弾片』の軍事科学へと向かう激流には抗し難かった。『室生寺』の仏教文化への敬意は３年で『法隆寺』の聖徳太子賛一色となり、『或る保姆の記録』の働く女性への共感は３年で『わたし達はこんなに働いている』の悲鳴となって、戦時下の国策で劇場上映された「文化映画」は廃墟のなかで終幕を迎える。

戦後、農地改革当時の農業は『日本の稲作』が、大規模漁業の現場は『海に生きる』が描いた。工業再建への傾斜生産を担った石炭産業は『炭坑』を見ずに語れない。参政権を得た女性の意識は『ひとりの母の記録』や『町の政治』が、六三制教育の諸相は「社会科教材映画大系」や『教室の子供たち』、『九十九里浜の子供たち』が伝えている。「教育映画」と呼ばれたドキュメンタリーが民主主義を説いた時代だった。自然科学では『ミクロの世界』からＤＮＡ、『ニホンザルの自然社会』に至るさまざまな視野で生命観が深化し、『マグニチュード7.9』の地球科学、『Ｘ線天文学への道』の宇宙論へと人々の視界は広がって、現代物理学の果実も『極限の世界』、『ナノワールドに挑む』と新産業を開拓した。

ドキュメンタリーは、現代史の森を探る人にとって、格好の演習林ではないだろうか。

日本のドキュメンタリーが生み出す豊潤な世界

原田健一 映像メディア研究家

今回、新たに編まれた『ドキュメンタリー映像集成』は、今日の多様な映像状況をふまえ、映像文化の未来をになう人たちのための映像の道しるべとして、体系的なテキスト集として編集しました。先の『文化･記録映画ベスト100』は、名作選として、親しみやすいものでした。今回の『集成』は、近年の映像研究の成果を取り入れて、新たな作品を発掘し、社会的な視野からはばひろく映画を捉えています。

日本のドキュメンタリーの歴史は、映画の教育的利用をめざすものと、日本の文化と社会のあり方を表すもの、そして、創造性ゆたかなアマチュアの自由さを求めるものの3つの大きな流れが混ざり合いながら、戦争と占領の時代をくぐり抜け、発展してきました。こうした時代の複雑な紆余曲折のなかで、映像は社会のもつ多様で複雑なあり方だけでなく、人びとの微妙な心のニュアンスを表現するようになりました。また、科学映画は人びとの科学を求める声に応え、科学への知的な好奇心や楽しさを満たすだけでなく、研究の最先端の成果によって、広い視野から人間とさまざまな生物たちと、それが生きる環境の全体像を描きだしました。

これらの個性豊かな映画を集めたとき、思ってもみないような関係があり、それまでとは違ったきらめきをはなつことに、監修者としても驚きました。どうか、日本の映画人たちが達成した数々の素晴らしい映像を楽しんでいただくだけでなく、これからの映像と社会と人を考えるうえで、テキストとして活用し、発展させていただければと思います。

討論や議論の素材として生かされるドキュメンタリー映像集成

渡部 実 映画評論家

2005年は終戦60周年を迎えた年であった。終戦の年に生まれた人も還暦を迎える。その年月に日本社会は驚くほど多様な変化を遂げた。今回、発売されるドキュメンタリー映像集成DVDソフトには戦前から現代に至るまでの日本の歩んだ歴史が映像によって克明に、しかも体系的に記録されている。ところで学生諸君に半世紀以上の歴史を学ばせるには文字（活字）だけでは不十分である。活字で記された事柄を証明するにはその事実背景としての、映像の力がどうしても必要になってくる。映像と活字の両面から日本の現代史は説得力をもってくるといえよう。今回の企画には社団法人映像文化製作者連盟のバック・アップのもと世代も視点も異なる監修者たちのかなり熱い議論が展開され、体系化の作業が進められた。監修者の一人としてそれは刺激的であり、苦しくも楽しい作業であった。映像を見て、そこに何かを発見する。一体、これは何であろうか!?と。その事柄を話し合う議論は果てなく続いてもよい。学問をすることの醍醐味がここにあるからだ。

今回のドキュメンタリー映像集成DVDソフトを学生諸君に見せることで、生まれた時からテレビゲームやパソコン・ソフトで育った彼等からは日本の現代史において今までに聞かれなかったまったく新しい知見が出るのではないだろうか。期待しつつも緊張する瞬間である。このドキュメンタリー映像集成は過去の映像であるが、議論次第では将来の日本社会を予見させる貴重な事象がそこに見出せるかもしれない。映像教育の面からも教師、学生の区別なく学問する喜びを湛えた価値あるソフトであると信じてやまない。

ドキュメンタリー映像集成

文化・記録映画でよむ現代日本

第1期 戦前から戦後へ／民主主義と科学映像の系譜

DVD VIDEO
ドキュメンタリー映像集成

全12巻　2006年　日本

- ●本作品は現存する貴重な原版を使用しDVD化致しました。作品のオリジナリティーを尊重するため原版のまま制作しております。視聴者の皆様方におかれましては、ご理解の上、ご鑑賞くださいますようお願い申し上げます。
- ●製作時から長い年月を経ているため、一部にお見苦しい点、お聞き苦しい点がございますが、ご了承願います。

ドキュメンタリー映像集成 第1期
BOX（全12巻セット）
特価 ¥315,000（税抜 ¥300,000）
ISBN4-87766-910-8　KKCL-25

分売 ※ディスク毎の分売が可能です。　各巻 ¥31,500（税抜 ¥30,000）

シリーズ1：帝国の現実と社会─「文化映画」の時代			
① 中国大陸の戦火	約110分	ISBN4-87766-912-4	KKCL-42
② 暮らし総力戦へ	約135分	ISBN4-87766-913-2	KKCL-43
③ アジアの中の日本文化	約125分	ISBN4-87766-914-0	KKCL-44
④ 科学と技術	約123分	ISBN4-87766-915-9	KKCL-45
シリーズ2：占領と、民主主義の新しい「教育映画」へ			
⑤ 復興へ向かう生産と労働	約119分	ISBN4-87766-916-7	KKCL-46
⑥ 農村の現実・自立する女性たち	約119分	ISBN4-87766-917-5	KKCL-47
⑦ 子供たちと民主主義	約120分	ISBN4-87766-918-3	KKCL-48
シリーズ3：戦後科学映像の系譜			
⑧ 人体を探るミクロの眼	約132分	ISBN4-87766-919-1	KKCL-49
⑨ 霊長類への理解と人間	約137分	ISBN4-87766-920-5	KKCL-50
⑩ 生命誌・観察の旅	約131分	ISBN4-87766-921-3	KKCL-51
⑪ 進化の歴史を追って	約133分	ISBN4-87766-922-1	KKCL-52
⑫ 原子･地球･宇宙　極微から無限大へ	約130分	ISBN4-87766-923-X	KKCL-53

著作権処理済 本ディスクの映像・音声ならびにパッケージに関する全ての権利は著作権者が有しており、無断複製、改変、公衆送信（放送、有線放送、インターネットなど）をすることは法律で禁止されております。本ディスクは学校・公共施設での個人を対象とした視聴・貸出・無償上映に関して、許可されております。

好評発売中

財団法人 ポーラ伝統文化振興財団 伝統の技と心

全10巻セット

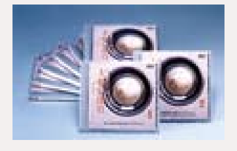
伝統工芸のわざ、伝統芸能の粋、民俗芸能・行事の心の記録──。
1979年の設立以来、日本の無形文化財の映像による記録を製作してきた、ポーラ伝統文化振興財団の貴重な映像の数々を初ソフト・DVD化。日本人の感性とわざを未来に伝える、ライブラリー必備のコレクション。

- ■陶芸　呉須三昧 ─近藤悠三の世界─
- ■陶芸　土と炎と人と ─清水卯一のわざ─
- ■染織　─連帯の手わざ─ 芭蕉布を織る女たち
- ■染織　彩なす首里の織物 ─宮平初子─
- ■漆芸　変幻自在 ─田口善国・蒔絵の美─
- ■人形　人形作家 秋山信子 ─心やすらぐ人形を─
- ■截金　西出大三 截金の美
- ■狂言　狂言師・三宅藤九郎
- ■民俗芸能　─神々のふるさと─ 出雲神楽
- ■民俗芸能　─琵琶湖・長浜─ 曳山まつり

1981-2003年／日本／344min.／日本語／COLOR／スタンダード モノラル／ドルビーデジタル／片面1層
特典：封入：解説リーフレット
DVD監修：渡部実
DVD企画：社団法人 映像文化製作者連盟
発売：株式会社 紀伊國屋書店
¥210,000（税抜¥200,000）
ISBN：4-87766-730-X　KKCL-7　※分売不可

毎日映画コンクール 大藤信郎賞受賞 短編アニメーション全集 1962～1997

全8巻セット



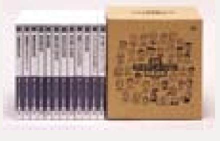
日本のアニメーション作家たちの勇気ある挑戦とその新しい成果の歴史。日本のアニメーションの先駆者大藤信郎を記念して設けられた、アニメーション芸術のための賞「大藤信郎賞」─その受賞作品の内、従来鑑賞する機会の少なかった短編作品を完全集成、更に受賞作家インタビュー原画、絵コンテなどの資料を収録！

■手塚治虫（ある街角の物語、展覧会の絵、森の伝説）■和田誠（殺人 MURDER）■久里洋二（人間動物園、LOVE、椅子、アオス、二匹のサンマ、部屋 The Room）■渡辺和彦（みにくいあひるの子）■やなせたかし（やさしいライオン）■岡本忠成（ふしぎなくすり、花ともぐら ホーム・マイホーム、南無一病息災、水のたね、虹に向って、おこんじょうるり、注文の多い料理店）■河野秋和・中村武雄（てんまのとらやん）■川本喜八郎（鬼、詩人の生涯、道成寺、いばら姫またはねむり姫）■古川タク（スピード）■たむらしげる（銀河の魚）■長崎 希（るすばん）■大藤信郎（くじら、幽霊船）

2000年／日本／計483min／日本語／COLOR／スタンダード モノラル／ドルビーデジタル／片面1層
監修：おかだえみこ（アニメーション研究家）
企画・制作：社団法人 映像文化製作者連盟
発売：株式会社 紀伊國屋書店
¥252,000（税抜¥240,000）
ISBN：4-87766-102-6　K0034　※分売不可

日本アートアニメーション映画選集

全12巻セット



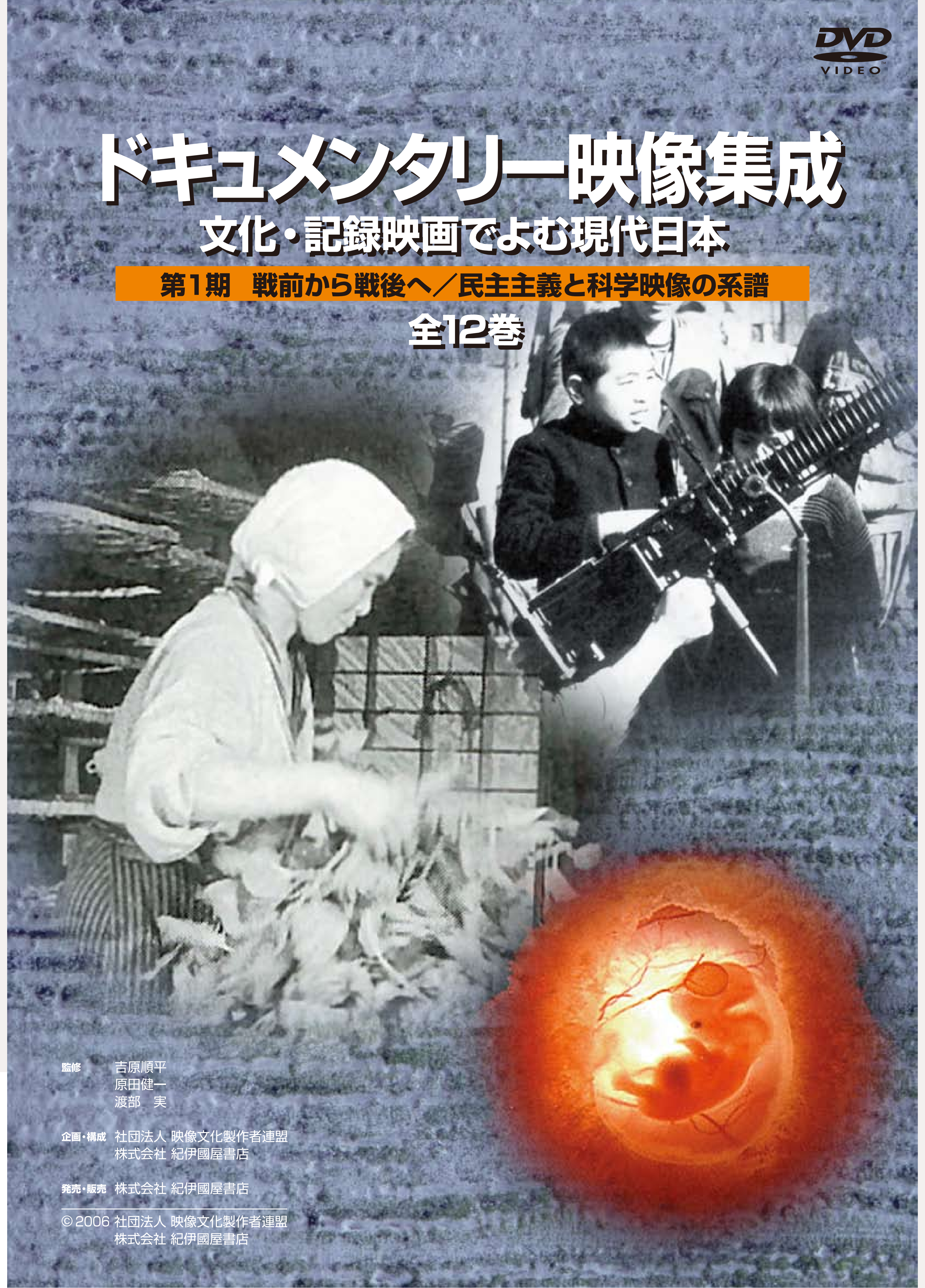
漫画・アニメーション映画とその歴史を、実際の作品で総括する、空前絶後のコレクション。
1920年代から本格化した日本のアニメーションが、今日の世界的評価を得るまでの歴史を、特に名作とされる作品、116作品で明らかにしていく。貴重な映像の永久保存を果たすと共に、様々な所蔵先に分散し、鑑賞の機会も限定されていた作品を、いちどに視聴することが出来るようにした。

DISC.1 大藤信郎作品集 DISC.2 政岡憲三とそのグループ DISC.3 瀬尾光世作品集 DISC.4 戦前傑作選 DISC.5 戦中期篇 DISC.6 戦後・現代傑作選 DISC.7 持永只仁作品集 DISC.8 横山隆一作品集 DISC.9 東映アニメとその流れ DISC.10 学研の仕事 DISC.11 アニメーション三人の会と実験アニメ DISC.12 パペットアニメーショウ

2003年／日本／計1140min.／日本語
監修：おかだえみこ（アニメーション研究家）
企画：社団法人 映像文化製作者連盟、株式会社 紀伊國屋書店
後援：日本アニメーション協会
協力：片山雅博、東京国立近代美術館フィルムセンター
　　　プラネット映画資料図書館
製作協力：株式会社 ポルケ、株式会社 キーワード、株式会社 IMAGICA
発売：株式会社 紀伊國屋書店
¥378,000（税抜¥360,000）
ISBN：4-87766-596-X　KKAL-15　※分売不可

商品に関してのお問い合わせは…
紀伊國屋書店 映像情報部　〒150-8513　東京都渋谷区東3丁目13番11号　Tel.03-5469-5917　Fax.03-5469-5957　http://www.kinokuniya.co.jp

---



ドキュメンタリー映像集成

文化・記録映画でよむ現代日本

第1期　戦前から戦後へ／民主主義と科学映像の系譜

全12巻

監修　吉原順平
原田健一
渡部　実

企画・構成　社団法人 映像文化製作者連盟
株式会社 紀伊國屋書店

発売・販売　株式会社 紀伊國屋書店

© 2006 社団法人 映像文化製作者連盟
株式会社 紀伊國屋書店

本集成の特色

『ドキュメンタリー映像集成－文化・記録映画でよむ現代日本』は、戦後60年という機会を捉えて日本のドキュメンタリー映像の膨大な作品集積を改めて見直し、新たな視点から評価して精選、現代史のダイナミズムを浮き上がらせる、映像作品集、作家集を超える初めての試みです。

1 図書館映像部門の標準資料となる現代史史料集成

歴史を動かした複雑多岐な要因を、直接的に記録してきたドキュメンタリー映像の面白さと史料価値。映像メディアへの専門的関心を越えて、広く歴史への関心に応えるコレクションです。

2 映像作品としての評価を超える現代史史料として精選

ドキュメンタリー映像は、作品としての「出来」の善し悪しだけでなく、その描く対象、その製作の背景の重要性を含めた評価が求められます。作品論、作家論を超えた評価の視点から、改めて収録作品を分析・選択。原版に溯って新資料の発掘にも努めました。

3 映像の現代史史料をよむ面白さを示唆する編纂方針

原則として複数の作品を収録するディスクにテーマを与え、それらをいくつかのシリーズに集約するというＤＶＤならではの編纂方法。全体として日本の現代史を通観するストーリー性を与え、映像史料から現代史をよむ面白さへの道案内としました。

4 21世紀初頭の視点から現代日本のあゆみを通観

戦前の戦記映画や文化映画、戦後の教育映画や産業映画、文化財の記録映画、市民運動のドキュメンタリー映画などのジャンルを超え、また映画からビデオへというメディア技術の進化も積極的に取り込んで、現代日本のあゆみを映像で通観する構成としました。

『ドキュメンタリー映像集成』全体構成の考え方

※全30巻を3期に分けて刊行する計画です。

第1期
戦前から戦後へ／民主主義と科学映像の系譜 （全12巻）

1930年代から敗戦までの「文化映画」作品、占領時代を中心に民主主義思想の普及のために製作された「教育映画」、戦後早くも国際的声価を獲得した「科学映画」とその後の展開を収録。（2006年2月発売）

第2期
高度成長期の産業と社会／歴史と文化の再発見 （全12巻）

高度成長期に盛んに製作された「産業映画」の展開、高度成長の影の部分に着目した諸作品、戦後社会における人間、文化、芸術を扱った諸作品を収録。（企画進行中）

第3期
戦後60年・時代の心を映した作品を探る （全6巻）

近作の長編も含めつつ、戦後60年を顧みて、日本の時代思潮の変化を端的に示す作品を収録。（企画進行中）